

I 問題意識と提言の目的

1 問題意識

- 平成 12 年度から教育コミュニティづくりを進める中で全中学校区において学校支援活動が実施されるなど学校を核とした地域活動が進展し、子どもと大人、学校と地域住民の交流が増えたと感じる人が増加するなど、教育コミュニティづくりの進展が伺える。
- 家庭教育支援については、大阪府による親学習リーダーの養成等により、公民館等社会教育施設での親学習などの家庭教育に関する講座の実施が進み、地域人材の主体的な活動による大人の学びの場づくりが進んでいる。
- 一方、地域には依然としてさまざまな課題（いじめ、ひきこもり、子育て不安等）が存在している。市町村の社会教育行政においては、そのような課題に関わる学習機会は提供しているものの、その学習成果を地域づくりの実践に結びつけることができていない。また、福祉部局等の行政部局、社会福祉協議会、ボランティアセンター、市民活動センター、NPO などそのような課題に対応しているが、「活動への協力者が不足している」「取組みの情報が行き渡らない」などの問題を抱えている。
- このような中、地域課題に対処していくには、教育コミュニティづくりに関わる地域住民と社会教育行政やその他の行政部局、社会福祉協議会、NPO などが連携を強めるとともに企業・大学等とも連携しながら、同じ課題に対処する必要がある。こうした考え方は、国の生涯学習分科会においても「従来の『社会教育行政だけで完結する取組み』から脱却し、首長部局・大学・民間団体等と連携して、地域住民も一体となって協働することが必要だ」と示されている。
- このように社会総がかりでの取組みを進めるためには、学校教育はもとより行政部局や地域の既存組織、社会福祉協議会等に対して、解決に向けた協働の取組みを通じて人々のつながりをつくるという社会教育の「得意技」をどのように活用してもらえるかを提案する必要がある。

2 提言の目的

- 今期の提言では、教育コミュニティづくりで培ってきた人々のつながりという土台を活かして、だれもが独りにならない地域社会をめざし、地域にあるさまざまな課題に対してできること気になることから始める人を増やすための具体的方策を提案する。

II 提言でめざす地域社会

1 めざす地域社会（だれもが独りにならない地域社会）とは

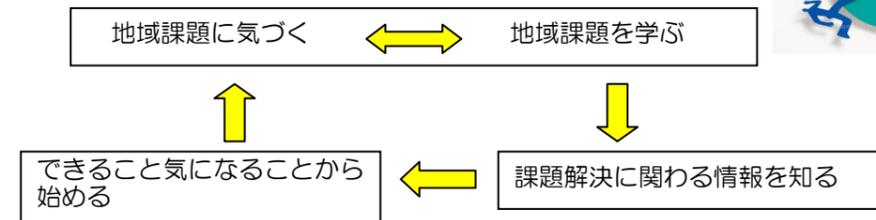
地域住民が困っている人の存在に気づき、困っている人に声をかける、相談にのるなどの行動を起こす人が増えていく地域社会。

2 めざす地域社会に近づくための具体的なイメージ

- 学校・家庭・地域の協働をさらに進め、大人のつながりを広げていく。
- そのつながりを土台にして住民が地域に困っている人がいることに気づき、学び、知り、できること気になることから始めるという動きが起きる。
- この動きが繰り返されることにより学びを実践に移していく人が増えていく。



<地域住民の学びと実践が循環していくイメージ図>



III 社会教育行政への提案

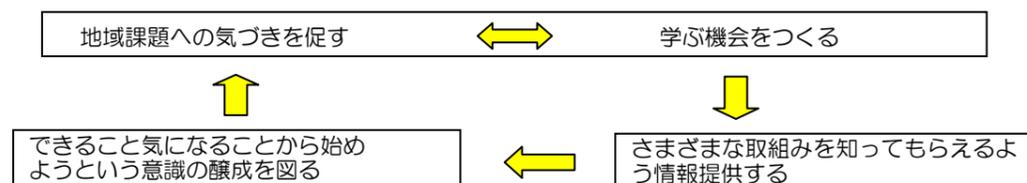
(1) 市町村への提案

- ①学校・家庭・地域の協働のさらなる進展に向けた条件整備
地域活動の核となる人材の育成・定着を図るとともに、教育コミュニティづくりを担う組織と行政部局はもとより地域の既存組織やNPO、企業、大学などの多様な活動主体とが顔が見える関係を築き、ネットワークが広がるような取組みを進めること。
- ②地域課題の解決に向けて、多様な活動主体と連携した取組みの推進
学校・PTA・子ども会や社会福祉協議会・NPOなどと社会教育行政が連携して、気づきから実践までの流れを視野に入れたプランづくりに取り組むこと。
- ③地域のネットワークの核となるための公民館等社会教育施設の機能の充実
公民館等社会教育施設等の機能を活かし、他の組織や団体とのつながりを意識しつつ、学びから実践へという動きが起こるような取組みを進めること。

(2) 大阪府への提案

市町村への提案（①～③）が進むよう、学校・家庭・地域の協働のさらなる進展に向けた人材育成などの研修や実践プランづくりに役立つ研修を実施するとともに、府内の学びと実践が繰り返されている事例を情報収集・提供すること。

<地域住民の中に学びと実践の循環を起こす社会教育行政の役割のイメージ図>



おわりに

- 「だれもが独りにならない地域社会」をあらためて表現すると地域課題の前で一步踏み出すことを躊躇していた人や関心を持たずにいた人が気づき、学ぶことにより、できること気になることから始める、という「学び」と「実践」が繰り返され、地域の教育力が向上している社会である。
- そのための仕掛けとして、「相互学習できる場をつくり、さまざまな活動主体をつなげる」という社会教育の「得意技」を活かしつつ、学びから実践につなげていく実践プランづくりを提案した。
- 今後、地域の実情にあわせて課題を絞ったうえで、実践プラン（例）を参考にして、社会教育ができる範囲で様々な活動主体と協働して「気づき」から「できること気になることから始める」までを意識したプランづくりを進めてもらいたい。そして、府内各地に取組みが進み、「学び」と「実践」が繰り返されるような動きが広がることを願ってやまない。

*資料編

- 実践プランの作成にあたって
- 実践プラン作成に向けた5つのステップ（流れの例）
- 提案書 ～実践プラン作成に向けて～
- 実践プラン作成シート
- 実践プラン（例）1～6